

東アジア近代史学会 第31回研究大会

日 程：2026年7月4・5日（土・日）

方 法：対面・オンライン併用／ 事前申込制 <https://forms.gle/tCplyUAPP3eBxGxt7>

場 所：対面参加＝亜細亜大学武蔵野キャンパス 200教室（2号館1階）

オンライン参加＝Zoom

参加費：対面参加： 会員1000円 / 非会員1500円

オンライン参加： 会員1000円 / 非会員1500円

資料代：1000円（対面参加者で希望者のみ。事前申し込み必要）



プログラム

◆ 1 日 目 （ 7 月 4 日（土））

開会挨拶 10時30分～10時40分 檜山幸夫（東アジア近代史学会会長）

自由論題報告 10時40分～12時10分（1人報告25分・質疑5分）

司会：鈴木楠緒子（文部科学省）

日本海湖水化論の再検討—島根県と東アジアの近代—

杉谷直哉（京都文教大学）

日系在華中国語新聞『順天時報』廃刊前後の再検証—ボイコットから復活計画まで

（1928～1935年）—

青山治世（亜細亜大学）

万宝山事件再考—満洲現地社会の視座から—

金子豊（京都大学・院）

休憩・昼食 12時10分～13時10分（理事会）

歴史資料セッション 「災害写真は何を伝えるか—関東大震災を中心に—」

13時10分～16時45分

司会：岩壁義光（中京大学）

趣旨説明

長谷川 怜（皇學館大学）

関東大震災をめぐる図画像資料の研究活用—水野勝邦〈震災アルバム〉を中心に—

長谷川 怜

関東大震災と画像情報の伝播—通信社撮影写真を中心に—

吉田律人（横浜都市発展記念館）

ガラス乾板写真の超高精細・カラー化から見えるもの（仮）

落合 淳（NHK エデュケーショナル）

総合討論

司会 東山京子（中京大学）・岩壁義光

総会（対面・オンライン併用） 17時～17時40分

懇親会 18時～20時（一般6,000円 院生・学生3,000円）

◆ 2日目 (7月5日(日))

大会シンポジウム 「ワシントン会議『後』の東アジアの国際関係—ワシントン体制の内と外から—」

10時40分～17時00分

司会 中谷直司(帝京大学)・久保田裕次(国士舘大学)

趣旨説明

中谷直司

平和の『作り方』をめぐる米国内の分裂とワシントン体制—チャールズ・E・ヒューズのアメリカ国際法学会演説(1925)を軸として—

中谷直司

五・三〇事件前後における幣原外交と在華紡の変容

渡辺千尋(東洋大学)

休憩・昼食 11:50～13:00 (理事会)

戦間期日本外務省における政策路線の分化—組織・人事・執務空間と政策派閥の形成—

矢嶋 光(名城大学)

戦間期における製糖業の対アジア資本輸出

平井健介(甲南大学)

シベリア出兵とワシントン体制

兎内勇津流(北海道大学)

第一次世界大戦後の東アジアに国際秩序は成立したか?—ヨーロッパとの比較の視座—

藤山一樹(大阪大学)

コメント1

黒沢文貴(東京女子大学名誉教授)

コメント2

小池 求(亜細亜大学)

全体討論

閉会の挨拶

東アジア近代史学会会長